

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業  
(発達障害早期支援研究事業)  
成果報告書 (概要版)

実施機関名 ( 岡山県教育委員会 )

1. テーマ

すべての子供が「わかった」「できた」と感じる授業づくり  
ー授業のユニバーサルデザインの考え方を取り入れた効果的な一斉指導と  
個に応じた支援の在り方についての研究ー

2. 問題意識・提案背景

平成 26 年度の岡山県調査では、各学校が把握している通常学級に在籍する特別な支援の必要な児童生徒の割合が小学校では 11.7%、中学校では 8.5%と平成 20 年度調査に比べ大幅に増加していることから、その対応が一層求められている。このような状況も踏まえ、本県では平成 25 年 4 月に「第 2 次岡山県特別支援教育推進プラン」を策定し、「特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりと学級づくり」の重要性を述べ、その具現化に向けて事業を実施しているところである。

これまで岡山県では、「授業のユニバーサルデザイン」の考え方を導入した研究を行い、落ち着いた学習ができるようにするための学習環境の整備や、ICT活用による視覚的に整理された情報提供の工夫、学習内容をわかりやすく提示する等の授業の構造化等の研究に取り組み、また、「授業のユニバーサルデザイン」の観点を取り入れた通常学級の授業改善に向けた研究協議会を開催し、実践を周知することで、知見を広め、通常学級における特別支援教育を推進していきたいと考えている。

再委託先である赤磐市では、平成 26 年度から本事業を受託し、「授業のユニバーサルデザイン」を意識した授業づくりを進めてきており、通常学級における授業改善を行ってきたところである。今年度は、この実践の成果と課題をまとめ、市内はもとより県内に周知を図っていききたいと考えている。

これらの取組を通して、通常の学級において支援を必要とする児童を含めすべての児童が意欲的に学習に参加することを目指す。

### 3. 指定校について

(小学校)

指定校名：赤磐市立桜が丘小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	51	2	45	2	47	2	55	2	53	2	44	2
特別支援学級	6		3		1		3		4		0	
通級による指導 (対象者数)	2		2		2				1		2	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	15	1	3	0	1	1	1	2	26	

児童数は平成 27 年 12 月 31 日現在

### 4. 指定校における取組概要

<p>①目的・目標</p> <p>通常の学級において支援を必要とする児童への効果的な指導方法の研究を進めることで、すべての児童が意欲的に学習に参加することを旨とする。</p> <p>②学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化</p> <p>ア) 岡山県総合教育センターが開発した「アセスメントシート」の活用 発達障害の可能性のある児童を早期に把握し、学級での教科指導や個別指導に生かすため、全校児童へのアセスメントを実施した。</p> <p>イ) 学力調査分析の活用 学力検査の結果分析により、どのようなつまづきがあるかを把握し、教科指導に活かすようにした。</p> <p>ウ) 個別の教育支援計画等の作成・活用 アセスメントシートの結果や日常の行動観察等から個別の指導計画を作成し、短期目標を明確にした継続的な支援を続けた。</p> <p>③学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容</p> <p>～特別支援教育の観点を生かした通常学級の授業づくり：授業のユニバーサルデザインへの活用</p> <p>ア) 環境の整備：教室環境と学習の流れを明確にする工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隠すものと見せるものを区別し、学習に集中できる教室環境づくり。</li> <li>・児童の特性に応じた座席配置の工夫。</li> <li>・一時間の授業の流れを明確にしたスケジュールの提示と必要に応じ個人のスケジュールの用意。</li> </ul> <p>イ) 指導の工夫：学習規律の徹底・流れと活動内容の明確な授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「焦点化」何を学ぶのか、どのような活動を行うのかが分かるように的確なめあてを示し、短い指示・発問をした。</li> <li>・「視覚化」1時間の学習の内容を捉えることができるように板書の工夫をす</li> </ul>
--

るとともに、ICTの活用による視覚的な支援を行った。

- ・「共有化」それぞれの学習場面で児童が安心して表現し全員で意見を共有できるように、学習形態（一人、ペア、グループ）による表現の違いを明確にした。

ウ) 個別の指導における指導方法の工夫内容

- ・多面的に捉えた児童の学びにくさを指導案に盛り込み、それに対する手立てを記述した。
- ・個々の認知の特性に配慮した学習プリントや学習内容を工夫した。
- ・学習に対する困難度を軽減するため、児童の実態に合った教具を工夫した。
- ・特別支援学級の支援方法を活用するため、研修や授業参観を行った。

④学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法

ア) 「アセスメントシート」で把握した特定の児童を中心とした授業参観と協議

- ・必要な支援として児童一人一人に対する学習の手立てを指導案に反映させた。
- ・公開授業において2～3人の児童を抽出し、抽出児にとって全体での指導が有効であったか、個々の児童への個別支援は適切であったか等協議を行った。

イ) 多面的な児童の実態把握のための体制づくり

- ・普段の指導は担任を中心として行うが、学年部を中心に担任以外が授業を見合うことにより、支援を必要とする児童について多面的に分析できるようにした。また、情報共有のための時間設定をした。

ウ) 校内支援体制の充実

校内での特別支援・生徒指導等の支援会議を計画的に実施し、組織的かつ効果的な支援会議の在り方を探るとともに、支援内容について定期的な評価を行う。

## 5. 主な成果

- ・授業を行う教員の授業づくりに関する意識が変容し、授業が変容した。  
（「焦点化」、「視覚化」、「共有化」のポイントを押さえた授業への変容）
- ・児童の反応（アンケートの記述）から授業を評価し改善するサイクルが確立した。
- ・児童が主体的に学習に取り組めるようになった。分からないから参加できない児童の姿は見られなくなった。

## 6. 今後の課題と対応

- ・学級児童全員が参加しているが、授業のねらいに迫る参加になっている児童ばかりではない。参加の質を上げることが課題である。
- ・課題への対応として、学級内の人間関係づくりを進める必要がある。
- ・国語を中心にユニバーサルデザインの授業づくりを研究したが、他教科へ広げていく必要がある。

## 7. 問い合わせ先

組織名：

- (1) 担当部署 岡山県教育庁特別支援教育課
- (2) 所在地 〒700-0956 岡山県岡山市北区内山下二丁目4番6号
- (3) 電話番号 086-226-7912
- (4) FAX 番号 086-224-0612
- (5) メールアドレス tokubetu@pref.okayama.lg.jp

- (1) 担当部署 岡山県赤磐市教育委員会学校教育課
- (2) 所在地 〒709-0816 岡山県赤磐市下市337
- (3) 電話番号 086-955-6807
- (4) FAX 番号 086-955-6060
- (5) メールアドレス gakkokyoiku@city.akaiwa.lg.jp